

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の米子市(学校組合)の概要

米子市(学校組合)教育委員会

令和7年4月14日～17日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。なお、本調査には、全ての米子市(学校組合)立小・中学校が参加しています。

1 全国の状況

本調査は、小学校では国語・算数・理科の3教科、中学校では国語・数学・理科の3教科で、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象として実施されました。調査問題については、学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題されています。調査結果から、課題が明らかになりました。例えば、国語では、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られました。算数・数学では、数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現すること、あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することなどに課題が見られました。理科では、電気が通る回路を実際の生活の中でつくることや化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題がありました。また、併せて実施された児童生徒質問紙調査では、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒や、ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られることが明らかになりました。

2 米子市の状況

※ 各教科の全体の正答率(市と県)は整数値での公表となっています。よって全国平均値との比較は、1ポイント以上の差をもって「上回る」「下回る」と表現しています。

(1)教科の概要

<小学校6年生>

【国語】
・全体として、全国平均を下回る結果でした。
・内容「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」では全国平均を上回り、それ以外の5観点では全国平均を下回りました。

【算数】
・全体として、全国平均を下回る結果でした。
・すべての領域で全国平均を下回りましたが、特に「変化と関係」の領域では、全国平均を大きく下回りました。

【理科】
・全体として、全国平均を下回る結果でした。
・すべての領域で、差は小さいものの全国平均を下回りました。

【国語】

区分	国語		平均正答率(%)		
			米子市	県	全国
全体			65(C)	65	66.8
内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に關する事項	74.0(C)	76.1	76.9
		情報の扱い方に關する事項	60.7(C)	60.6	63.1
		我が国の言語文化に關する事項	79.3(C)	78.0	81.2
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	67.6(B)	65.3	66.3
		書くこと	67.2(C)	67.8	69.5
		読むこと	55.9(C)	56.3	57.5

【算数】

区分	算数	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		56(C)	55	58.0
領域	数と計算	59.5(C)	59.1	62.3
	図形	53.8(C)	53.7	56.2
	測定	52.3(C)	52.6	54.8
	変化と関係	53.5(D)	54.0	57.5
	データの活用	59.7(C)	59.9	62.6

区分	理科	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		56(C)	56	57.1
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.3(C)	44.4	46.7
	「粒子」を柱とする領域	51.1(C)	50.0	51.4
	「生命」を柱とする領域	51.6(C)	51.2	52.0
	「地球」を柱とする領域	66.3(C)	65.3	66.7

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均値-3ポイントまでをC、全国平均との差が-3ポイント以上をDで表記しています。

※全体の平均正答率(市・県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

<中学校3年生>

【国語】 ・全体として、全国平均を下回る結果でした。 ・内容「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を上回る状況でした。それ以外の3観点では、全国平均を下回りました。 【数学】 ・全体として、全国平均を下回る結果でした。 ・「データの活用」の領域では全国平均を上回りましたが、「数と式」の領域では全国平均を大きく下回る状況となりました。 【理科】 ・平均IRTスコアは全国平均を下回る結果でした。				
---	--	--	--	--

【国語】

区分	国語		平均正答率(%)		
			米子市	県	全国
全体			52.7(C)	52	54.3
内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	50.3(B)	46.7	48.1
		情報の扱い方に関する事項			
		我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	52.0(C)	49.3	53.2
		書くこと	50.2(C)	50.4	52.8
		読むこと	61.5(C)	60.3	62.3

【数学】

区分	数学	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		46.2(C)	44	48.3
領域	数と式	39.2(D)	37.2	43.5
	図形	45.1(C)	43.2	46.5
	関数	47.3(C)	44.8	48.2
	データの活用	58.8(B)	55.6	58.6

区分	理科	平均IRTスコア		
		米子市	県	全国
全体		489(-14)	490	503

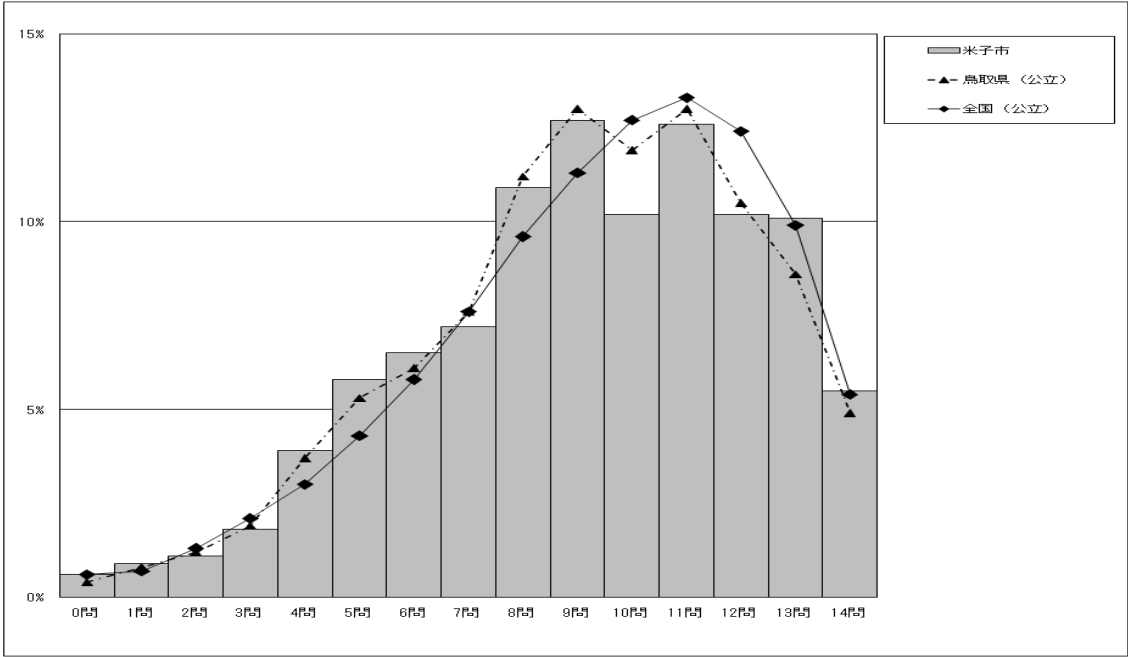
※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均値-3ポイントまでをC、全国平均との差が-3ポイント以上をDで表記しています。
 ※理科は、全国平均との差を得点で表しています。

※全体の平均正答率(県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

(2) 正答数分布に見る本市と全国との比較

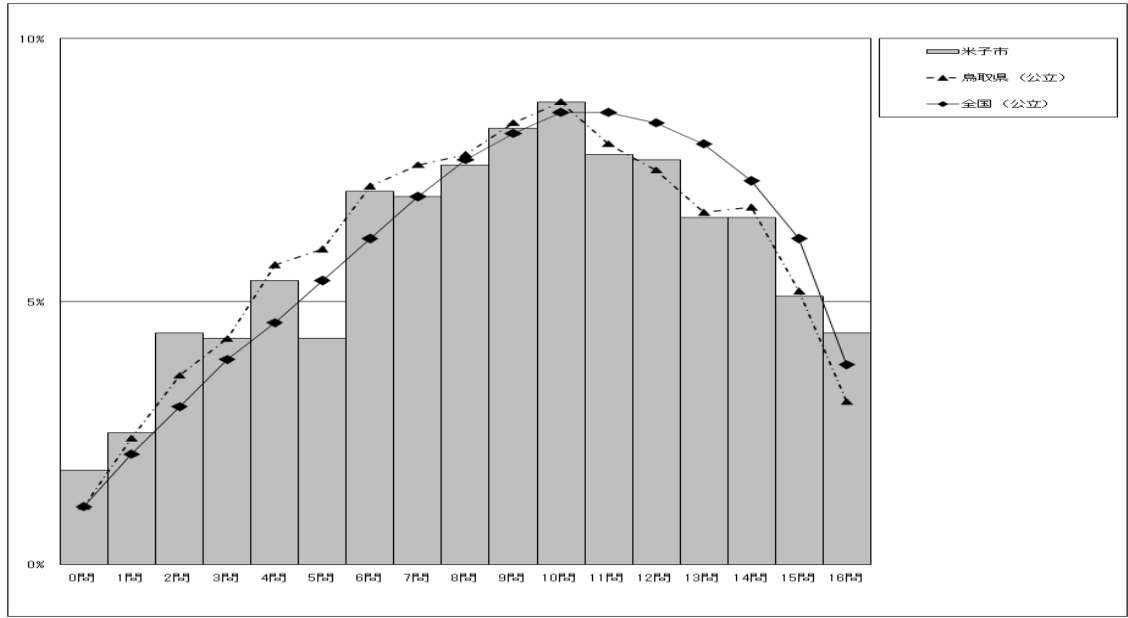
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

【小学校6年 国語】



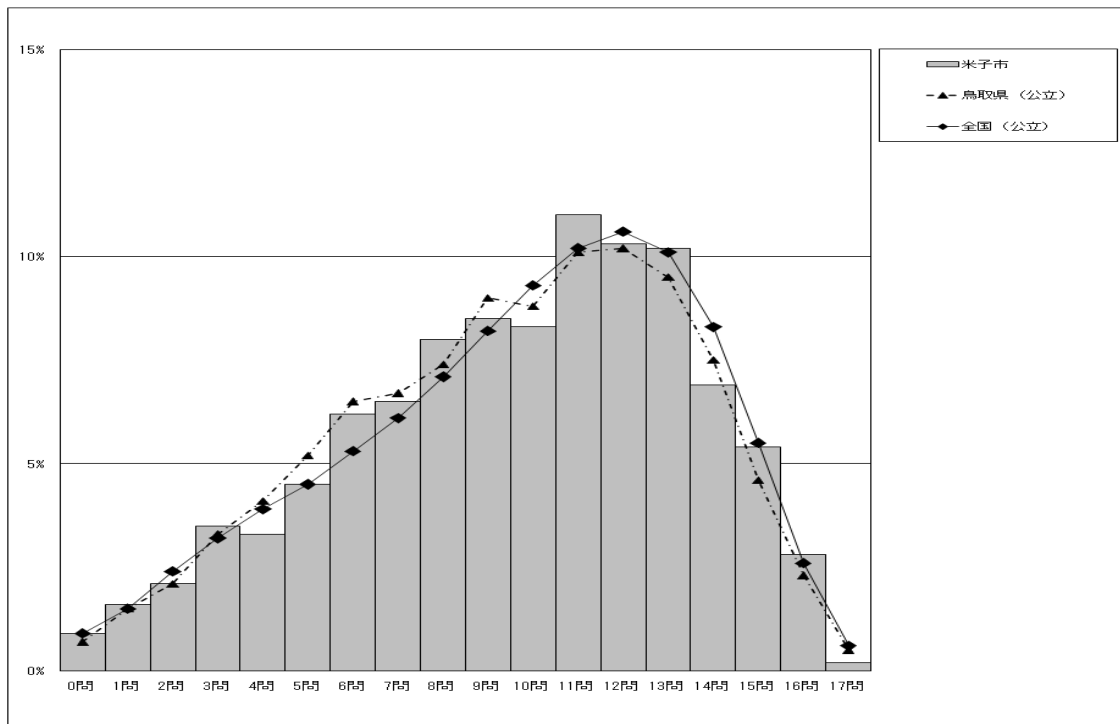
※平均正答率は、全国平均を下回る結果でした。
・正答数の分布は、全国と比べて0-6問正答の児童の割合が高く(全国17.8%、市20.6%)、12問以上正答した児童の割合が低い(全国27.7%、市25.8%)状況でした。

【小学校6年 算数】



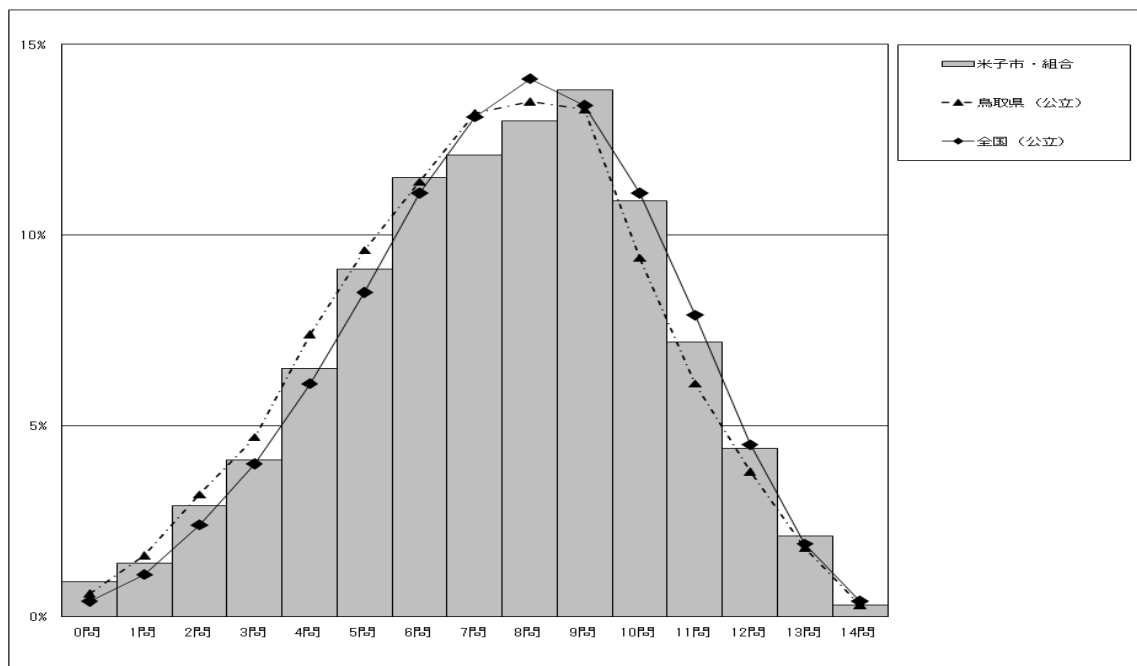
※平均正答率は、全国平均を下回る結果でした。
・正答数の分布は、全国と比べて10問以上正答した児童の割合が低い(全国50.9%、市47.0%)状況でした。また、0-5問正答した児童の割合が高くなっています。(全国20.1%、市22.7%)

【小学校6年 理科】



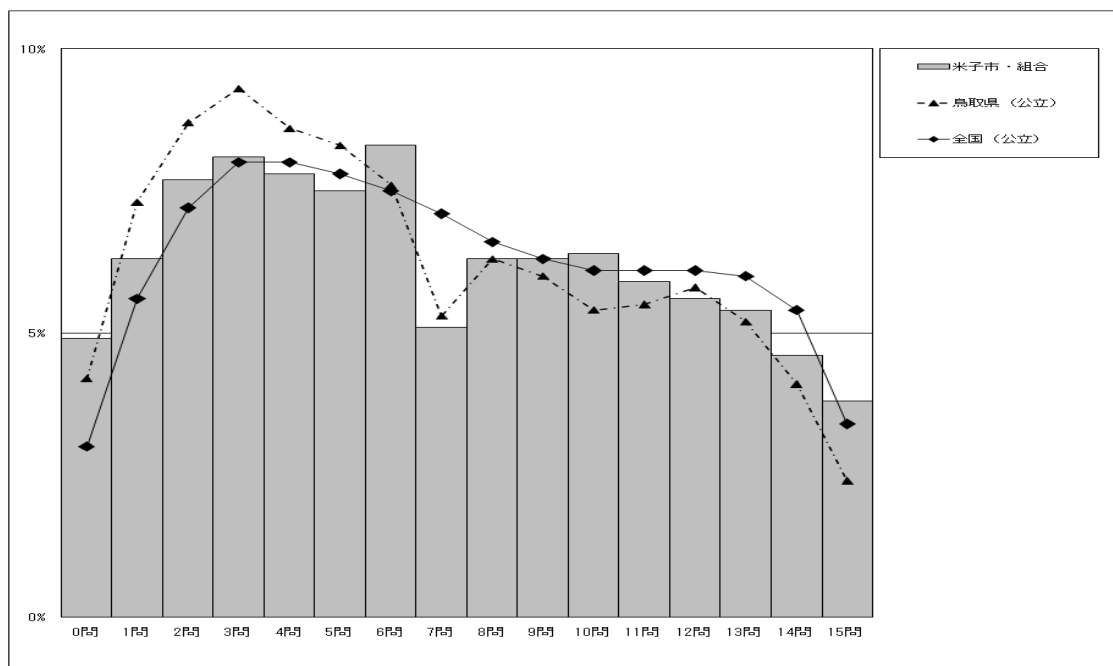
※平均正答率は、全国平均を下回る結果でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べて、13問以上正答した児童の割合が低く(全国27.1%、市25.5%)、0-9問正答した児童の割合が全国より高い結果でした。(全国43.1%、市45.1%)

【中学校3年 国語】



※平均正答率は、全国平均を下回る結果でした。
 ・正答数の分布は、全国と比べて10問以上正答した児童の割合が低い(全国25.8%、市24.9%)状況でした。また、0-5問正答した児童の割合が高くなっています。(全国22.5%、市・組合24.9%)

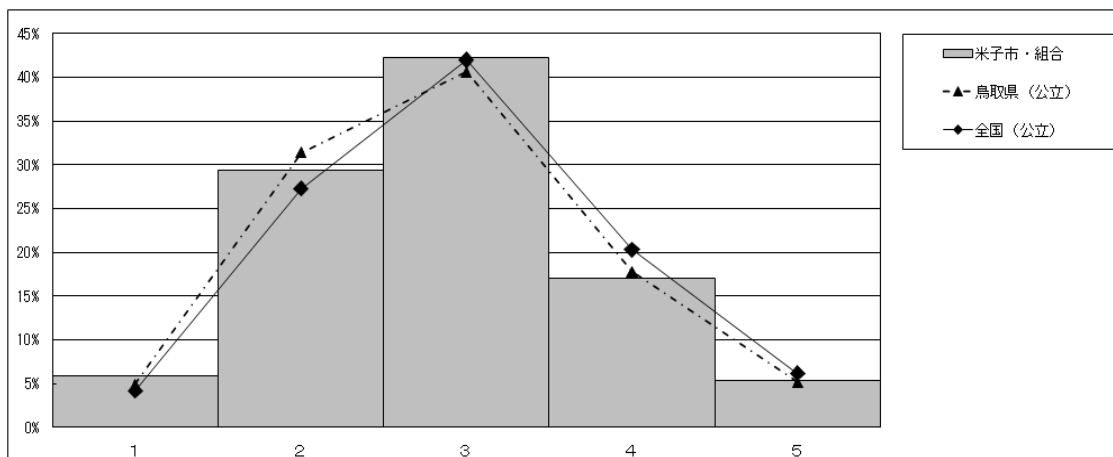
【中学校3年 数学】



※平均正答率は、全国平均を下回る結果でした。
 ・正答数の分布は、全体に広がっており、0-6問正答した生徒の割合は、全国より高い状況でした。
 (全国47.1%、市・組合50.6%)

【中学校3年 理科】

正答数分布グラフ(横軸:IRTバンド 縦軸:割合)



※平均IRTスコアは、全国平均を下回る結果でした。
 ・IRTバンドの分布は、1と2の生徒の割合が、全国平均より高い状況でした。(全国31.5%、市・組合35.3%)

(3)本年度、中学校3年生の令和4年度(小学校6年生時)と令和7年度(中学校3年生時)の平均正答率の比較

令和4年度(小学校6年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語	65	65.6	-0.6
算数	62	63.2	-1.2
理科	63.1	64.6	-1.5



令和7年度(中学校3年生時)の平均正答率・平均IRTスコア			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語	52.7	54.3	-1.6
数学	46.2	48.3	-2.1
理科	489.0	503.0	-14.0

[主な傾向]

○令和7年度(中学校3年生時)の平均正答率の差(米子市-全国)は、令和4年度(小学校6年生時)のそれと比べると以下のような状況でした。

- ・国語は全国との差が大きくなりました。
- ・算数・数学は全国との差が大きくなりました。
- ・理科は得点の表し方が変わりましたが、引き続き全国平均を下回っています。

(3)子どもたちの学習や生活の様子 ―児童生徒質問紙調査より―

※全国平均を上回っている数値(色つき)

米子市教育振興基本計画に関連するもの					
「(1)心を育む学びのあるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔5〕	自分には、よいところがあると思いますか	小6	87.8%	86.9%
			中3	86.5%	86.2%
	〔7〕	将来の夢や目標を持っていますか	小6	84.5%	83.1%
			中3	66.7%	67.5%
	〔8〕	人が困っているときは、進んで助けていますか	小6	94.8%	93.7%
			中3	90.5%	90.9%
	〔9〕	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小6	98.3%	97.2%
			中3	95.4%	95.9%
	〔11〕	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小6	96.6%	96.4%
			中3	96.4%	96.6%
「(2)学ぶ楽しさのあるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔17〕	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(1時間以上)	小6	50.3%	54.0%
			中3	61.9%	61.6%
	〔18〕	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)(1時間以上)	小6	19.1%	19.6%
			中3	15.0%	13.7%
	〔21〕	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)(10分以上)	小6	53.2%	53.2%
			中3	45.7%	40.4%
	〔28〕	前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)	小6	66.7%	71.7%
			中3	93.4%	76.5%
「(3)郷土で育む学びのあるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔26〕	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(習い事は除く)	小6	36.0%	39.4%
			中3	29.7%	29.5%
	〔27〕	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小6	79.3%	81.3%
			中3	73.0%	75.3%
「(4)健康で安心して学べるまち」に関連する項目					
	質問番号	質問事項	学年	市(学校組合)	全国
小中共通	〔1〕	朝食を毎日食べていますか	小6	93.6%	93.7%
			中3	92.1%	91.2%
	〔2〕	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小6	84.3%	81.9%
			中3	82.7%	81.0%
	〔3〕	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小6	91.6%	91.0%
			中3	94.0%	92.6%
小	〔71〕	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	小6	78.3%	80.0%

【全国と本市(学校組合)との比較で特徴的な評価項目】

	肯定的な評価項目(全国との差が+5ポイント以上)	本市 (学校組合)
小	該当する評価項目なし	
中	○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(10分以上)	+5.3
	○1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)	+16.9
	○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか	+5.1
	○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか	+8.4
	○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	+5.9
	○1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	+5.9
	○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	+5.1
	○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	+6.4
	○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	+7.6
	○国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	+8.1
	○国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	+8.5
	○数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	+8.6
	○理科の勉強は得意ですか	+6.5
	○理科の勉強は好きですか	+5.0
高	○将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	+5.7
	○理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	+5.5

	否定的な評価項目(全国との差が-5ポイント以下)	本市 (学校組合)
小	○これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	-5.8
	○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)	-5.0
	○あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか	-7.4
	○5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	-8.7

	○算数の勉強は得意ですか	－5.3
	○将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	－5.5
中	○理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	－8.7

3 結果を受けて

(1)各学年、各教科についての課題等

「令和7年度 全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省 国立教育政策研究所)に示された設問ごとの観点に基づいて、本市としての課題等をまとめています。

なお、各観点ごとに以下のように示しています。

○全国平均正答率を上回っている、または同値の点

△全国平均正答率を下回っている点

〈小学校6年生 国語〉

[]内の記号は、問題番号

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

△△ 漢字を文の中で正しく使うこと。[2]四ア・イ

情報の扱い方に関する事項

△ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。[1]二

我が国の言語文化に関する事項

△ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。[3]一

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

○ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること。[1]一

○ 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること。[1]三(1)

△ 話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。[1]三(2)

書くこと

△ 書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えること。[2]一

△ 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。[2]二

△ 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。[2]三

読むこと

○ 内容の大体を捉えること。[3]二(1)

△ 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。[3]二(2)

○△ 文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けること。[3]三(1)(2)

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を下回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」については、全国の平均正答率を下回る結果でした。基礎基本の確実な習得と習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた支援を充実させることが大切です。

「読むこと」では、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する設問、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける設問で、全国の平均正答率を3ポイント以上下回る結果でした。要旨を把握するためには、文章の一部分だけを読むのではなく、全体の内容を捉えることが大切です。

「書くこと」では、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がありました。無回答率も全国平均より高かったため、日頃より、自分の考えをまとめる経験の積み重ねが大切です。

〈小学校6年生 算数〉

[]内の記号は、問題番号

数と計算

- △ 資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること。[1](4)]
- △ 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えること。[3](1)]
- 分数の加法について、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述すること。[3](2)]
- △ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えること。3]
- 異分母の分数の加法の計算をすること。[3](4)]

図形

- △ コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。[2](1)]
- △ 台形の意味や性質について理解すること。2]
- △ 角の大きさについて理解すること。[2](3)]
- △ 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること。[2](4)]

測定

- △ はかりの目盛りを読むこと。[4](3)]

変化と関係

- △ 伴って変わる2つの数量の关系到着目し、必要な数量を見出すこと。[4](1)]
- △ 伴って変わる2つの数量の关系到着目し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。[4](2)]
- △ 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと。4]

データの活用

- △ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ること。1]
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。[1](2)]
- △ 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと。[1](3)]

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を下回る設問が多い状況でした。

「数と計算」については、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた最適な支援を充実させる必要があります。問題別では、小数を共通する単位で捉えて計算したり、分数を単位分数のいくつ分で捉えたりすることに課題がありました。一方、分数の計算において、単位分数をそろえることや、異分母の計算をすることは全国平均正答率を上回りました。

「図形」では、平行四辺形の作図の仕方について問う設問に課題がありました。図形の性質と作図の仕方を結び付けて理解できるような指導が重要です。

全国平均正答率と大きく差があった領域は、「変化と関係」です。問題を解決するために、問題文や資料から必要な情報や数量を見出すことに課題があり、無回答率も高かったです。学習したことを日常生活に生かす力を伸ばしていけるような指導が大切です。

「エネルギー」を柱とする領域

△ 身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石にひきつけられるものがあることを理解すること。

[2](1)]

△ 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること。2]

△ 電磁石の強さは巻き数によって変わることを理解すること。[2](3)]

△ 乾電池の直列つなぎについて理解すること。[2](4)]

「粒子」を柱とする領域

○ 水の温まり方について、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること。

[4](1)]

△ 水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解すること。

[4](2)イウ]

△ 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解すること。

[4](2)エオ]

△ オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現すること。[4](3)カ]

△ 「水は温まると体積が増える」を根拠に海面水位の上昇した理由を予想し、表現すること。[4](3)ク]

「生命」を柱とする領域

○ ヘチマの花のつくりや受粉について理解すること。[3](1)]

△ 顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶこと。[3](2)]

△ 発芽の条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現すること。3]

○ 発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現すること。[3](4)]

「地球」を柱とする領域

○ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土と水の量を正しき設定した実験の方法を発想し、表現すること。1]

○ 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること。[1](2)]

△ 【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現すること。[1](3)]

○ 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること。[4](3)キ]

〔全体として〕

全体として、差は少ないものの、全国平均正答率を下回る問題が多くありました。

ヘチマの花のつくりや受粉についての設問においては、全国平均正答率を4ポイント以上上回りました。観察を行いながら、正しい知識が身に付いていると言えます。

しかし、領域ごとに見ると、「エネルギー」を柱とする領域に課題がありました。特に電磁石の強さが巻き数によって変わるということの知識を問う設問では、全国平均正答率を3ポイント以上下回りました。問題の多くは学習により知識が身に付いたかどうかを問うものであり、実験を通して実感を伴った知識の習得をし、理解を深めることが大切です。問題解決や探究のプロセスを通して、身に付けた知識を活用することができるような指導を充実させる必要があります。

〈中学校3年生 国語〉

[]内の記号は、問題番号

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

- △ 文脈に即して漢字を正しく使うこと。〔1〕(一)〕
- 事象や行為を表す語彙について理解すること。〔3〕(三)〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

- △○ 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。〔2〕(一)(四)〕
- △ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。〔2〕(二)〕
- △ 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること。〔2〕(三)〕

書くこと

- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。〔1〕(二)〕
- △ 内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えること。〔1〕(三)〕
- △ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。〔1〕(四)〕
- △ 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること。〔4〕(一)〕
- △ 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。〔4〕(二)〕

読むこと

- △ 表現の効果について、根拠を明確にして考えること。〔3〕(一)〕
- △ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること。〔3〕(二)〕
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。〔3〕(四)〕

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を下回る設問が多い状況でした。

「知識及び技能」については、引き続き、確実な習得と一層の習熟が図れるような繰り返しの指導に加え、個に応じた最適な支援を充実させる必要があります。また、漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている1026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要があります。

「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」については、差は小さいものの全国平均正答率を下回りました。

「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる際には、根拠を明確にすることが重要です。自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げ、書き手の意図との関連を考えさせることが大切です。文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけではなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりすることを指導する必要があります。

「書くこと」については、根拠を明確にして自分の考えを伝える文章を書く問題や、表記・叙述の仕方などを確かめて文章を整える問題で、無回答率が全国平均を上回りました。読みやすく分かりやすい文章にするためには、表現の仕方に注意して文章を読み返す習慣を育成し、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えるように指導することが重要です。

〈中学校3年生 数学〉

[]内の記号は、問題番号

数と式

- △ 素数の意味を理解すること。[1]
- △ 数量を文字を用いた式で表すこと。[2]
- △ 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげる。[6](1)
- △ 式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明すること。[6](2)
- △ 式を変形したり、意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。[6](3)

図形

- △ 多角形の外角の意味を理解すること。[3]
- 証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見出すこと。[9](1)
- △ 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること。[9](2)
- △ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。[9](3)

関数

- △ 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること。[4]
- △ 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る。[8](1)
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。[8](2)

データの活用

- 相対度数の意味を理解すること。[5]
- △ 必ず起こる事柄の確率について理解すること。[7](1)
- 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。[7](2)

〔全体として〕

全体として、全国の平均正答率を下回る設問が多い状況でした。

「数と式」では、全ての設問で全国の平均正答率を下回る結果でした。引き続き、基礎的基本的な内容の確実な習得と、一層の習熟が図れるような繰り返しの指導が必要です。また、無回答率の高さも目立ちました。日頃から、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に表す活動を行ったり、考えを引き出したり思考を深めたりする指導、適切にノートをとるなど、学習方法に関する指導を行ったりすることが大切です。

「図形」においては、多角形の外角の意味理解に課題があり、全国平均正答率を大きく下回りました。基礎的な内容理解だけでなく、生徒自らが数学的な表現を使って説明ができるように指導することが大切です。

「データの活用」においては、昨年度と同様、全国平均正答率を上回りました。複数のデータを活用し、自分の考えを数学的な表現を用いながら説明する力がついていると言えます。多様なデータ分析の方法について、それぞれの特徴を正しく理解できるように、丁寧に指導することが重要です。

〈中学校3年生 理科〉

[]内の記号は、問題番号

※公開問題のうち、共通で出題されている6間について

「エネルギー」を柱とする領域

○ 回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いていること。1

「粒子」を柱とする領域

△ 身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定すること。[1](2)

△ 元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いていること。[1](5)

○ 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現すること。[1](6)

「生命」を柱とする領域

△ 水の中の生物を観察する場面において、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いていること。[1](4)

「地球」を柱とする領域

△ 地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈すること。[1](3)

【全体として】

平均 IRT スコアは、全国平均 IRT スコアを下回りました。

公開問題のうち、共通で出題された6間を見ると、全国平均正答率を下回る設問が多くありました。特に全国平均正答率との差が大きかった、課題の設定についての設問では、無回答率は高くなかったものの、「疑問を解決するため」という条件の一つを満たしていない解答が多くありました。身の回りの事象から生じた疑問や問題が解決可能かどうかに着目し、科学的な探究の課題を自分の言葉で表現する学習場面を設定する必要があります。

今回の調査は、CBT 方式で行われました。今後も ICT 機器活用のレベルアップを図り、効果的に使うことができるよう、指導していく必要があります。

(2)児童生徒質問紙調査結果より 〈小・中学校共通〉

○米子市教育振興基本計画に関連する質問事項については、多くの点で全国の平均値を上回りました。

○小・中学校共通して、多くの児童生徒が自分にはよいところがあると考えています。さらに、昨年度よりも数値が高くなっています。

○1時間以上勉強する児童生徒の割合は、全国平均と比べると中学校は上回っていますが、小学校は下回っています。小学校においては、タブレットを用いた学習時間も全国平均より少ないため、家庭学習を充実させる取組が必要です。また、生活習慣が整っている児童生徒の割合が高く、学習習慣と合わせて、家庭との連携を図ることが大切です。

○PC・タブレット端末などの ICT 機器については、昨年度同様小・中各学校で使用頻度に差があることがわかりました。全体として中学校では全国の平均値を大きく上回っていますが、小学校は下回っています。さらにレベルアップを図り、個に応じた学びを実現するための効果的な活用が必要です。

○小・中学校が児童生徒の学力や生活習慣における課題の傾向を明らかにし、9年間の内容を系統化し、一貫した指導を行っていけるよう、小中一貫教育を推進していきます。

(3)家庭では

児童生徒の学力の定着を図るために、以下のような取組をお願いします。

○基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。

→あいさつや食事、睡眠、朝食の摂取など規則正しい生活リズムを身に付けると、児童生徒の本来の力が発揮されやすくなります。

○家庭で学習する習慣を定着させましょう。

→各校で配布されている家庭学習の手引き等を参考に、学習する時間を見直してみましょう。継続して、計画的に学習することで、学力を定着させることができます。

○新聞を含め、家庭での読書活動をさらに勧めましょう。

→学校の図書館等に、児童生徒を対象とした新聞などもあります。特に新聞を読むと世の中の動きがわかり、社会的なものの見方や考え方が育まれるとともに、語彙力や表現力が身に付きます。

○日常生活の中で社会のルールやマナーを身に付けさせましょう。

→思いやりの心や社会性などの豊かな心を育むことができます。

○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させたり、郷土の自然や文化にふれる体験をさせたりしましょう。

米子市(学校組合)教育委員会としては、調査結果と他の調査結果を関連させて考察した上で、今後も主体的・対話的で深い学びと個に応じた学びの実現に向けて取り組んでいきます。また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要ですので、今後さらに学校と家庭とが連携できるような取組を進めていきたいと考えています。